によど川

仁淀川町広報

2011
4月号

仁淀高校閉校式典

夢と希望胸に晴れやかな卒業式

鈴木定博さん瑞宝単光章受章

集落見聞録〈長坂〉

仁淀高校閉校式典に500人

五日前に最後の卒業生を送り出したばかりの高知県立仁淀高等学校で、三月六日「閉校式典」が行われ、卒業生や教職員ら約五百人が出席しました。

当日は、別れを惜しむかのように雨が静かに降り続くなか、全国各地から集まった卒業生たちが、旧友や恩師、かつての学びやとの再会を懐かしんでいました。

式典では、閉校事業実行委員会の加藤亀生会長が「六十三年間、学校に関わった全ての人々の記憶に仁高を残してもらえたら」とあいさつ。また最後の卒業生の一人大黒真寿実君は「私たちが入学する前から、この学校の閉校は決まっていました。きっと寂しくなると思った学校生活も、上級生や下級生の目を気にすることなく、伸び伸びと楽しく過ごすことができました」と振り返りました。

参加者全員が、思い出をかみ締めながら校歌斉唱したあと、昭和二十五年度修了生の田村名香さん（77歳・東村上）と今年度卒業生の梅木涼君から中澤卓史県教育長へ学校の象徴である校旗が返納されました。

式典終了後「記念碑除幕式」や「閉校記念の会」が盛大に行われ、近況報告や思い出話に花が咲いていました。

卒業生ら母校に別れ「ありがとう　仁高」

「学舎の里　仁淀高校」と書かれた主石は、仁淀川の上流久万高原町産の「油石」。3つある記念碑の全ての文字は、昭和41年度卒業生の若藤敏久さんが書かれました

卒業生代表が県教育長に校旗を返納

高知県立仁淀高等学校の歴史

昭和23年8月26日	高知県立佐川高等学校仁淀分校設置
昭和23年9月10日	普通科64名、別科40名、授業開始
昭和31年4月1日	高知県立仁淀高等学校として独立
昭和53年9月7日	体育館新築竣工
昭和56年2月28日	校舎（鉄筋4階建）1期工事竣工
昭和57年1月8日	校舎2期工事竣工
昭和57年11月19日	格技場竣工
昭和57年11月20日	創立35周年記念式典
昭和61年8月29日	正門、プール竣工
平成9年11月16日	創立50周年記念式典
平成18年9月17日	県教育委員会が仁淀高等学校の廃校、佐川高等学校への統合を発表
平成23年3月1日	最後の卒業式（開校以来2106人が卒業）

閉校記念の会

思い出話に花が咲きました

「仁淀高校　ありがとう」

私にとっても最後の卒業式、最高の思い出になりました。

個性豊かな六名の生徒は、高校生らしいまなざしで、すがすがしく自信に溢れ、たくさんの思い出を財産として「誇りを胸に」いい顔で卒業式を終えました。

五日後の日曜日に、地域の実行委員会の方々と一体となって、閉校式を迎えました。想定を超える約五百名の参加者でしたが、駐車場や受付は混乱もなく、式もほぼ定刻通りに始まりました。

予定外のにわか雨もありましたが、「学舎の里」の除幕式や「宴の席」もみんなが笑顔で、気持ちよく終わることができました。

わずか一年間の在籍でしたが、仁淀高校が自然に囲まれ、心豊かな地域の方々の声援の中で、学校も生徒たちも一歩一歩成長している姿が感じられました。深く感謝いたします。

高知県立仁淀高等学校
校長　平井洋一郎

卒業おめでとう

夢と希望を胸に　晴れやかな旅立ち

三月一日に行われた仁淀高校（最後の卒業式）を皮切りに、町内の小中学校と自然学園で卒業式が行われました。慣れ親しんだ学びやや、お世話になった先生方との別れに寂しさをにじませながらも、四月から始まる新生活に夢と希望を抱き、保護者や在校生らに見守られながら、晴れやかな表情で巣立っていきました。

※写真の人数・日付は卒業生人数および式開催日

仁淀高校　6人・3月1日

吾川中学校　13人・3月15日

池川中学校　10人・3月15日

仁淀中学校　10人・3月15日

旅立ちの日、思わず涙が込み上げました

恩師らに見送られ、新たな一歩を踏み出します

名野川小学校 5人・3月21日

池川自然学園 2人・3月19日

別府小学校 7人・3月23日

大崎小学校 13人・3月20日

長者小学校 12人・3月23日

池川小学校 8人・3月20日